

ロード  
レース

日本自転車界のパイオニア  
日本を代表する選手を輩出  
**ミソノイ  
レーシングクラブ**

1984年に創部、全国屈指のクラブチームとして活動を続け、多くの有力選手を輩出する「ミソノイレーシングクラブ」。名門クラブチームとして歴史と品格を誇っている。五代目御園井智三郎さんは自身が成しえなかった目標を選手たちに叶えてほしいと、コーチとして尽力してきた。「まずは日本一に。今度はアジア。その次はオリンピック！」と指導者として逐次夢を実現。そのコーチ力は選手たちの実力を磨き上げるだけでなく、その選手がこの先どうするべきかと、人生そのものを導く

ものであったという。次なる目標は、自転車競技の確固たるフィールドをこの地で作りあげ、浜松を代表するプロチームを作ること。「東日本大震災以降、自転車そのものの利活用が見直され、健康・エコ・利便性から自転車人口は増えつつある。今こそ自転車IIスポーツという概念がもつと身近に定着するよう一翼を担ってほしい」と語る。

What's ロードレース

道路を自転車で走り、ゴールの順番や所要時間を争う競技。個人がゴールを競う個人戦と、メンバーの一人を勝たせるために走るチーム戦がある。

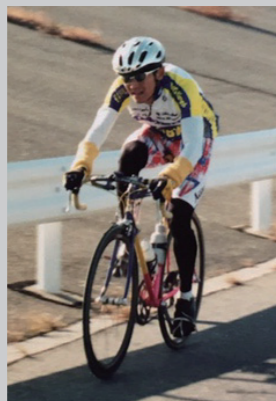


ミソノイレーシングクラブが輩出！ 沼田雄一さん

■浜松市出身・愛知県在住／ロードレース歴15年

沼田雄一さんは、御園井さんの高校・大学の後輩でミソノイレーシングチームの初期メンバー。東北学院大学時代、日本初のインカレ2連覇を果たし、未だその記録を破る者はいない。全日本大会優勝、アジア選手権大会日本代表選手として出場、さらにバルセロナオリンピック強化指定選手にも認定された。「勝敗を決めるのは、全選手に平等に降

り注ぐ試練。坂道や向かい風をどう味方にするかだ」という沼田さん。交通事故で選手生命を絶たれてしまったが、彼自身それを不運と思ったことはないという。奇跡的に命を取り留め、日常生活を楽しく過ごしていることに感謝し、人生を全うしている。すべての試練をプラスに転じるテクニック。スポーツ選手に一番大切な強い精神は健在だ。



浜松から全国へ 有名選手を輩出  
自転車競技のエキスパート集団

THE EXPERT

東京オリンピック2020で、本県は自転車競技の会場となる。浜松で精力的に活動するロードレースやトラック競技、トライアスロンのスクールやクラブチーム、そこから輩出された国内外で活躍する選手たちを紹介。

競輪

スピードの限界を追求  
選手の活躍を支えるメカニック

Pro Shop Ikuser

プロショップイクサー

元競輪選手の杉浦生哲さんが営むプロショップイクサー。市内はもとより県外からも、多くの競輪選手や実業団ロード選手たちが自転車のメンテナンスに訪れる。それもそのはず、杉浦さんはオリンピック選手に重要な全日本プロ選手権自転車競技大会にてメカニックを担うほどの技術者。選手一人ひとりの体や癖に合わせて微妙な調整をし、ホイールを手作業で組む。わずか0.5mmの違いでもスピードやテクニクに影響を及ぼす競輪用自転車ゆえ、匠の技が必要不可欠なのだ。彼自身、自転車競技歴36年、BMX全国大会優勝・全日本実業団大会10000MTT準優勝など、数々の大会で好成績をおさめてきた実力者。経験者ならではの知識と技術で競輪界を支えている。



What's 競輪

7人または9人の選手が競走路を自転車で行き、誰が一番早くゴールするか競う日本発祥のプロスポーツ。オリンピック競技の「ケイリン」は日本の競輪が基になっている。

Pro Shop Ikuserに支えられてきた 河合康晴さん

■浜松市出身・浜松市在住／競輪歴28年

河合さんは、高校・大学時代の先輩だったイクサーの杉浦さんにトラック競技のいろはを教わり、走りを極めてきた。今でも先輩後輩の仲は健在で、大会時のアドバイスやメカニックでサポートを受けている。競輪は成績が悪くすぐに失格になるという過酷な世界だが、河合さんは28年間プロとして走り続けている。静岡競輪場で優勝する姿を両親に見せることができた20代、

オリンピック選考に繋がる全日本プロ自転車競技大会に出場した30代、記念すべき通算250勝を飾った40代。そして1年前、選手生命を危ぶまれる大怪我を経験するも、驚きの復活を遂げる。恐怖心から怪我をきっかけに引退してしまう選手も多い中、「好き」という感情が継続と向上のエネルギーとなり、今もなおプロとして活躍している。



What's トライアスロン

水泳(スイム)・自転車ロードレース(バイク)・長距離走(ラン)の3種目を、この順番で連続して行い、総計のタイムを競う、鉄人レース。

ハイドロパワートライアスロンスクールが輩出！

石田凧帆さん ■御殿場市出身・浜松市在住／トライアスロン歴9年

2018年、世界最高峰の「アイアンマンワールドチャンピオンシップ」に出場し、スイム3.8km・バイク180km・ラン42.195kmの約226kmを完走。2019年、日本ロングディスタンス選手権で3位入賞。小柄がかわいらしい見た目からは想像できないが驚異のパワーを持つ、トライアスロンの鉄人である。石田さんがトライアスロンを始めたのは高校を卒業してから。小学校では水泳、

中高では陸上に励んでいたが、ケガが多く、何か違うスポーツをしたいと思っていたところ、アルバイト先の仲間からハイドロパワーを紹介された。2012年のデビュー戦では見事優勝。その楽しさと達成感に惹かれ、トライアスロンを極めていく。目標は2020年日本ロングディスタンス選手権で優勝すること。そして国体と日本選手権では自分の最高タイムを更新することだ。

トライアスロン

県内唯一のトライアスロンスクール  
選手とコーチ、二足のわらじで次世代に繋ぐ

ハイドロパワートライアスロンスクール

ハイドロパワーは、県内初のトライアスロンスクール。世界水泳やトライアスロンワールドカップ日本代表の経験をもつ足田浩気さんが設立し、コーチを務める。トライアスロンは、歴史ある浜松の水泳文化と活動が盛んな陸上競技と自転車を組み合わせた耐久競技。まさに、この地で次世代に繋げていくべきスポーツだと精神的に活動する。はじめはわずか数名だったが、13年たった今、小学生から選抜アスリートまで多くの選手が所属している。スイムはプールでのフォーム修正やインターバル練習、バイクは主に浜名湖周辺でトレーニング、ランは陸上競技場などで正しいフォームを身につけるなど、ほぼ毎日練習に励んでいる。「コーチをしていると、自身のトレーニングにもなる」と足田さん。浜松の地でトライアスロンをよりメジャーにするために、自らも45〜49歳のエイジカテゴリーでの世界チャンピオンを目指しながら、選手育成に尽力している。

